第7回錯視コンテストへ次の通り応募します。

**氏名**：杉原厚吉

**所属**：明治大学先端数理科学インスティテュート

**作品のタイトル**：飛び乗る鶏

**作品の形式**：静止画像（もとは3次元立体ですが、それを撮影した画像です。）

**現象**：正12角柱を横向きに立てた立体の後ろに鏡を垂直に置くと、立体は素直に鏡に映ります。しかし、立体の一番下に置いた鶏は、鏡の中では一番上に乗っています。

**説明**：鏡に映しただけで物の位置が変わるはずはありませんから、これは錯視です。実際には、正12角柱は素直にそのまま鏡に映っているわけではありません。上下が反転して写っています。なぜ上下が反転して見えるかというと、水平な平面に描かれた絵だからです。立体を斜めに見下ろして水平面へ投影した絵は、反対方向から同じ角度で見下ろすと、上下を反転した立体の投影像と一致します。この幾何学的な性質を利用すると、いろいろなバリエーションの錯視作品が作れます。

http://home.mims.meiji.ac.jp/~sugihara/invisibleobjects/invisibleobjectsj.html

平面図形なのに（そして種を知った後でもなお）立体が知覚されるのは、平行四辺形を長方形と解釈する形の恒常性によるものと考えられます。

